

## 第105回全国高等学校野球選手権記念宮城大会

□大会第11日目 7月20日(木)

準々決勝	石巻市民球場	2時間 17分			打安点盗犠四三残失併
仙台育英	1 0 0	0 0 0	0 4 0	5	【仙】 32 8 5 0 0 4 5 4 1 0
東北	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0	【東】 31 5 0 0 1 1 12 6 0 0
( 球 ) 布田 秀斗 (一) 三浦 徹 (二) 野田 学 (三) 浅野 卓也					▽本塁打 齋藤敏
【仙】	湯田	—	尾形	—	▽三塁打 なし
【東】	秋本、ハップス	—	日隈	—	▽二塁打 湯田 (仙) 金子 (東)
▽暴投	秋本1(東)		▽捕逸	なし	

## 【評】

昨夏の全国覇者仙台育英が東北を下し、準決勝へ駒を進めた。仙台育英は初回、齋藤陽の中前適時打で先制。8回には2本の安打と四球で満塁の好機をつくると、一死後、5番齋藤敏が右翼スタンドに大会第14号となる満塁本塁打を放ち、試合を決定づけた。投げては湯田が12三振を奪う力強い投球を見せ、無失点で9回を投げ切った。東北は2～7回は堅守と秋本・ハップスの継投で仙台育英の攻撃を無得点に抑えたが、打線がつながらず得点を奪うことができなかった。宮城の高校野球をリードしてきた両校の熱戦は、仙台育英に軍配があがった。

準々決勝	石巻市民球場	1時間 13分			打安点盗犠四三残失併
塩釜	1 0 0	0 0		1	【塩】 16 4 1 1 2 0 3 2 1 1
東陵	1 0 3	3 4X		11	【東】 24 12 11 2 0 5 1 4 1 1
( 球 ) 佐藤 圭 (一) 山館 浩樹 (二) 森山 宏則 (三) 細川 和行					▽本塁打 小竹森
【塩】	大槻、菅原	—	岩崎	—	▽三塁打 小竹森・菅野・今野・嶋原(東)
【東】	前田	—	沼田	—	▽二塁打 なし (塩) 今野 (東)
▽暴投	なし		▽捕逸	なし	

## 【評】

第4シードの東陵が塩釜を下し、2017年以来の準決勝進出を決めた。初回大槻の中犠飛で塩釜が先制したが、東陵がその裏にすぐに追いつき、その後着実に得点を重ねた東陵が5回コールドで試合を決めた。東陵の1番今野が全打席出塁し4得点する等、好機を演出した2番嶋原が2安打3打点、3番小森竹は2点本塁打を含む4打点と攻撃陣を大きく牽引した。投げては先発前田が散發4安打、無四球で塩釜に流れを渡さなかった。塩釜は再三走者を出すものの、相手の好守に阻まれた。

準々決勝	石巻市民球場	2時間 17分			打安点盗犠四三残失併
古川学園	0 1 0	0 0 0	0 0 0	1	【古】 31 9 1 1 2 4 4 9 1 0
仙台城南	0 0 0	0 0 1	0 1 X	2	【仙】 25 6 1 0 3 6 7 8 0 2
( 球 ) 雁部 博昭 (一) 鴫田 代志昭 (二) 菅原 幸 (三) 菅原 久					▽本塁打 なし
【古】	岩本、今野	—	林	—	▽三塁打 なし
【仙】	安住	—	岡村	—	▽二塁打 今野 (古) 佐藤終 (仙)
▽暴投	今野		▽捕逸	なし	

## 【評】

仙台城南が逆転で接戦を制し、準決勝進出を決めた。1点を追う仙台城南は6回裏、3番柿崎、4番山崎の連打で一死一・三塁とすると、一塁走者山崎の一・二塁間挟殺プレーの間に三塁走者がホームインし、同点に追いつく。さらに8回裏、2つの四球と敵失で無死2・3塁とすると、5番佐藤龍の二ゴロで1点を追加し、勝ち越しに成功。主戦安住はランナーを背負いながらも粘り強い投球で古川学園打線を1失点に抑えた。古川学園は2回表、9番久保の右前適時打で先制するが、その後は好機で一本が出なかった。

準々決勝	石巻市民球場	2時間 18分			打安点盗犠四三残失併
古川工業	0 0 0	0 0 0	0 2 2	4	【古】 33 8 4 0 2 2 10 6 0 1
利府	2 0 1	0 0 0	0 2 X	5	【利】 27 8 5 5 3 2 4 3 1 0
( 球 ) 毛利 晃 (一) 小松 宗夫 (二) 西山 充 (三) 石川 英孝					▽本塁打 なし
【古】	佐藤颯	—	佐々木大	—	▽三塁打 なし
【利】	曾我	—	太田	—	▽二塁打 渡邊、伊藤善 (古) 本田 (利)
▽暴投	佐藤颯1(古)		▽捕逸	なし	

## 【評】

古川工業の終盤の猛追及ばず、利府の曾我が毎回の10奪三振で勝利を収めた。一回裏利府は古川工業主戦佐藤颯から一番本田の二塁打、五番渡邊の中前安打で2点先取し、主導権を握った。三回にも二番佐藤の中前安打と四番万城目の犠飛で加点。八回は佐藤、亀谷、万城目の三連打で2点を加えた。古川工業の終盤の粘りが素晴らしかった。八回八番佐々木優の四球、九番庄子の右前安打、一番伊藤善の右越二塁打で反撃開始。九回四番相澤の右前安打、五番佐々木大の内野安打、七番佐々木蒼の四球で満塁とし、九番庄子の左前適時打で2点返すも、涙をのんだ。